

ね、この本よんだ？

2011. 4~2012. 3



図書館で毎月発行している『とよかん通信』でご案内した「あたらしい子どもの本」のリストです。絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわけて、全部で60冊のブックガイドです。この一年、職員が手にとって選んだおすすめの本がリストアップされています。2008年度から始めて第4集になります。紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても、素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館



| 区分 | NDC分類 | 内容 | タイトル |
|------|-------|--------------|--|
| 絵本 | 913 | 日本の作品 | 『あたしおねえちゃんなの』 『いとしのロベルタ』 『おてがみちょうだい』 『オニじゃないよおにぎりだよ』 『くらげのりよかん』 『たんじょうびってすてきなひ』 『ちびころおにぎりなかみはなあに』 『トントンをまちましよう』 『みてよ ぴかぴかランドセル』 『ようかいガマとの』 『落語えほん しまめぐり』 『わたしはあかねこ』 |
| | 933 | 海外の作品 | 『いつもふたりで』 『おおきなわんぱくぼうや』 『カンガルーには、なぜふくろがあるのか～アボリジナルのものがたり』 『フーくんのおへそ』 『ぼくたちのいえはどこ？』 『ほんなんてだいきらい』 『タンポポたいへん！』 『ながいながいよる』 『ねむるまえに』 |
| | 943 | 海外の作品 | 『ニコとねずみのすてきなせかい』 |
| | 949 | 海外の作品 | 『ゆきだるまのスノーぼうや』 |
| | 953 | 海外の作品 | 『ちいさな死神くん』 |
| 読みもの | 913 | 日本の作品 | 『お父さんのバイオリン』 『クマのあたりまえ』 『クリーニングのももやまです』 『クロネコつうしん』 『十方暮の町』 『チョコレートと青い空』 『夏のサイン』 『パパはステキな男のおばさん』 『秘密のゴンズイクラブ』 『妖怪一家 九十九さん』 『リターン！』 『ロップのふしぎな髪かざり』 |
| | 933 | 海外の作品 | 『アンガスとセイディー～農場の子犬物語～』 『エアーマン』 『エリザベス女王のお針子～裏切りの麗しきマント』 『カイト パレスチナの風に希望をのせて』 『きみ、ひとりじゃない』 『空色の凧』 『ダーウィンと出会った夏』 『チビ虫マービンは天才画家！』 『テッドがおばあちゃんを見つけた夜』 『パパはバードマン』 |
| | 949 | 海外の作品 | 『ぼくたちとワッフルハート』 |
| | 963 | 海外の作品 | 『雨あがりのメデジン』 |
| テーマ本 | 019 | 図書館 | 『つぎ、なにをよむ？』 |
| | 031 | 日本語 | 『日本と世界をくらべるえほん』 |
| | 302 | 経済 | 『日本のもと 円』 |
| | 367 | 家族問題 | 『おかえり、またあえたね～ストリートチルドレン・トトのものがたり』 |
| | 376 | 中等教育 | 『高校受験 すぐにできる40のこと』 |
| | 489 | 哺乳類 | 『ありがとう、諏訪子さん～日本でいちばん長生きしたインドゾウの話』 |
| | 500 | 技術・工学 | 『もののしくみ大図鑑』 |
| | 538 | 航空宇宙工学 | 『飛べ！「はやぶさ」』 |
| | 596 | 食品・料理 | 『テーブルマナーの絵本』 |
| | 723 | 洋画 | 『名画で遊ぶ あそびじゅつ！』 |
| | 754 | 木竹工芸 | 『切り紙12か月 作ってかざろう！』 |
| 814 | 語彙 | 『なかまことばえじてん』 | |

『あたしおねえちゃんなの』
こがようこ／作
スティーナ・ヴィルセン／絵
クレヨンハウス

「あたしにはもうとがいるの。ふたーりよ。」ふたりのいもうとは、かわいいけれどイヤイヤしたり、泣いたりと大変で…。おねえちゃんだからと、妹たちのお世話をし、お母さんとお父さんを手伝ったり、我慢したりとがんばるちっちゃんおねえちゃん。そんな双子のおねえちゃんのおはなしです。

『いとしのロベルタ』
佐々木 マキ／作
絵本館

とある男性が、いなくなった“ロベルタ”を探しながら、不思議な街や山、果ては海(の中)を彷徨います。全編男性のモノローグで大人びた印象の文と明るい色合いの不思議な世界観を持つ絵がミスマッチで大人も子どもも楽しめるはずです。男性が探し求める“ロベルタ”とは一体…最後まで読んでのお楽しみ!?

『おてがみちょうだい』
新沢 としひこ／作
保手浜 孝／絵
童心社

ヤギのコージーおじさんは、ゆうびん屋さん。ウサギのピッチは、おてがみの配達についていくことにしました。リスのコーナーも、タヌキのポーリーも、心のコもったおてがみをもらっておよろこび。ピッチは、うらやましくてたまりません。ほくもおてがみほしいなあ、、、。ピッチはおてがみもらえるでしょうか?

『オニじゃないよおにぎりだよ』
シゲタサヤカ／作・絵
えほんの杜

みなさん知っていますか?オニはおにぎりがないです。いつものようにオニたちがおにぎりを食べていると、山へきた人間たちに出会います。大あわてで逃げていく人間たち。オニが人間たちの落としていったおにぎりに気付き、味見してみると…信じられないまずさ!!そこでオニたちがとった驚きの行動とは…!?

『くらげのりよかん』
やぎ たみこ／作・絵
教育画劇

きのこがりに山に入ったたけちゃんとおじいちゃんは、道に迷って開業したばかりの”くらげりよかん”へやってきます。初めてのお客様ということで大歓迎され、貸切・タダで一泊させてくれるのですが、この旅館なんか変?実は、うちゅうくらげが経営するくらげりよかん、おもてなしも変?だけどとっても楽しい!こんな可愛い宇宙人の旅館にならとまってみたくもと思える楽しい絵本です。

『たんじょうびってすてきなひ』
あいはら ひろゆき／作
かわかみ たかこ／絵

今日はヘレンちゃんのおたんじょうび。だけどへそまがりなヘレンちゃんにはお祝いしてくれるともだちがいません。自分でお祝いしましたが、ちっとも嬉しくありません。「たんじょうびってかなしいひ」。その時窓の外で音がして…。特別な一日のあたたかいお話です。

『ちびころおにぎりなかみはなあと』
おいしゅんこ／作
教育画劇

ママさんの手でおいしいおにぎりができました。しゃけ入りのにぎるくん、梅干し入りのむすみちゃん、たらこ入りのげんまいくん。だけど、ちいさなちびころちゃんの中味がありません。そこで、ちびころちゃんの中味を探そうと竹かごのがんたたさんにのって出発しますが、トーストさんやたまごさんに聞いてもわかりません。ちびころちゃんの中味は見つかるのでしょうか？

『トントントンをまぢましよう』
あまんきみこ／作
鎌田暢子／絵
ひさかたチャイルド

夕方から降り出した雪を見て、お母さんは「たいへん、こんやはいそがしくなるわ」とつぶやき、そして、あわてて甘酒を作りだしました。

「こんなにいっぱいのあまざけ、だれがのむの？」とみこちゃんが聞いた時、トントントン。玄関のドアをたたく音がしました。

ドアを開けてみるとそこには、知らないこどもたちが立っていて…。寒い冬に心があたたかくなるようなお話です。

『みてよ ぴかぴかランドセル』
あまん きみこ／作
西巻 芽子／絵
福音館出版

赤いランドセルを買ってもらったかこちゃんは、だれかに見せたくなりました。よもぎのはらを歩いていると「みせて、みせて」とよってきたのはきつねのこ、うさぎのこ、ねずみのこ。みんながランドセルを背負ってみたくなくて、かこちゃんは「どうぞ」と言いましたが、どうもねずみのこにはランドセルは大きすぎます。背負えずに泣き出したねずみのこのために、ねずみのかあさんはどうしたでしょう？春がまちどおしくなるお話です。

『ようかいガマとの』
よしながこうたく／作
あかね書房

ある日の学校帰り、テストを埋めるために寄った駐車場で、ユウタはカエルを見つけます。家につれて帰ると、カエルは「ワシをガマ池のガマとのさまとしてのことか！」とユウタを怒鳴り、ガマ池につれて帰るように言ったのです。でも、この辺に池なんてありません。ユウタは、ガマとのさまをガマ池にかえすことができるのでしょうか？

『落語えほん しまめぐり』
桂 文我／文
スズキコージ／絵
プロンズ新社

亡くなったおじいさんが語った話では、南の国にある不思議な島には山より大きい人、アリより小さい人がいて、手足が伸びたり縮んだり、首がクルクル回ったりするんだって！そんな話を確かめに旅に出て、うっかり島に置き去りにされると、そこには、おじいさんに聞いた通りの人たちが！！江戸時代から幕末にかけて、沢山創作された不思議な国を訪れる物語を元にした上方落語をスズキコージの迫力ある絵で楽しめる一冊です。

『わたしはあかねこ』
サトシン／作
西村敏雄／絵
文溪堂

白ねこかあさんと黒ねことうさんからうまれたあかねこちゃん。他の兄弟はお父さんとお母さんの色を受けついでいたのに、あかねこちゃんだけは全然違う色です。みんなはあかねこちゃんの体を白や黒に染めようとはしますが、あかねこちゃんは自分の色をとても気に入っていました。そのままの自分をわかってもらえず、かなしくなったあかねこちゃんは、ある夜、家をとびだして…

えほん(海外)

『いつもふたりで』
ジュディス・カー／作
亀井よし子／訳
ブロンズ新社

ヘンリーは いま てんごくに いるけれど せなかに つばさがあるから まいにち 4じから7じのあいだ もどってきて ふたりで いろんなところへ であけていくの。長年つれそつた夫のヘンリーに先立たれたおばあちゃん。ふたりで若い頃にはできなかった冒険や、とびっきり遠くまでのお出かけを楽しみます。こんな夫婦って素敵だな、と思える絵本です。

『おおきなわんぱくぼうや』
ケビン・ホークス／作
尾高薫／訳
ほるぷ出版

冬いちばんの大雪の日に、赤ん坊がうまれた！夜泣きをしたり、ポート遊びがお気に入りだったり、トディは他の赤ん坊と何も違うところはなかった。ただひとつだけ、トディは大きな、大きな、とても大きな赤ん坊だったということのをのぞいては…。思わず笑い出してしまうような、ユーモアたっぷりの絵本。

『カンガルーには、なぜふくろがあるのか～アボリジナルのものがたり』
ジェームズ・ヴァンス・マーシャル／再話
フランシス・ファイアブレイス／絵
百々 佑利子／訳
岩波書店

この絵本には、大地や動物、植物がどうやって生まれたのか、なぜそんな姿になったのかについてのオーストラリアの先住民アボリジナルに伝わる10の物語が収められています。日本では、あまり馴染みのないお話ばかりですが、アボリジナル絵画のインパクトの強い絵と共に楽しめます。

『フーくんのおへそ』
ラモン・アラグエス／作
宇野和美／訳
フランチェスカ・ケッサ／絵
光村教育図書

フーくんは4さいと4かげつとよっかのおとこのこ。ある日お風呂に入っていたら、おなかにゆびが入っちゃった。ゆびが入ったのはおへそのあな。「おへそっておもしろいね！けど、なんでこんなのあるのかな。」知りたがりのフーくんは聞いて回ります。はたして答えは見つかるのでしょうか？そして、おへそってどうしてあるのかな？皆さんもフーくんと一緒に考えてみませんか？

『ぼくたちのいえはどこ？』
アレクシス・ディーコン／作
ヴィヴィアン・シュワルツ／絵
木坂 涼／訳
徳間書店

ちいさなくらいあなのなかで、ぬくぬく安心してねむっていた7ひきのなかまたち。だんだん大きくなって、ある日みんなは外へ出てしまいます。あたらしい家をさがしに出発するのですが、行く手には数々の困難があつて…。さてさて、彼らは無事にあたらしい家を見つけられるでしょうか？かわいくて、ちょっと笑ってしまうお話です。

『ほんなんてだいきらい』
バーバラ・ポットナー／文
マイケル・エンバリー／絵
さんべ りつこ／訳
主婦の友社

図書室の先生ミス・ブルックスと本やお話が大好きな女の子の話。おはなし会を楽しんでもらうために凝った衣装まで用意する先生を冷めた目で見るとおませな女の子に、“恐怖”の読書週間がやってきて、好きな本について発表しなくてはならなくなります。女の子は好きな本を見つけられるのでしょうか？そして、見つけられたとしたら、どんな本だったのでしょか？？

『タンポポたいへん！』
シャーロット・ミドルトン／作・絵
アーサー・ピナード／訳
鈴木出版

モルモットガ丘の町ではだれもかれもみんなタンポポの葉っぱが大好き。昼も夜もムシャムシャ、クシャクシャとタンポポの葉っぱをかじる音が聞こえてきます。ところが、いつからかタンポポの葉っぱが足りなくなり、ついには食べつくされてしまいます。ただ、ひとつだけひっそりと生き残っているタンポポをクリストファーくんが見つめました。よだれがでそうなのをがまんして、クリストファーくんが考えたことは…

『ながいながいよる』
マリオン・デーン・パウアー／文
テッド・ルウィン／絵
千葉 茂樹／訳
岩波書店

さむくてくらく、つめたい風がうめく森の中。カラスがヘラジカがキツネが、おひさまを取り戻そうとそれぞれが勢いづくが、風が答えます。「あなたたちではない」と。小さな小鳥がいちばん得意な歌をうたいます。するとゆっくりゆっくりと、太陽が目をあける。森の中で静かに静かに春への第一歩が始まります。

『ねむるまえに』
アルパート・ラム／作
デイビッド・マクフェイル／絵
木坂涼／訳
婦の友社

ある夜、こぐまのティミーがママに「ねむるまえにきょねんのなつにやった“ねむるまえあそび”をしようよ」と言いました。ベッドに入る前には川のそばで歯を磨き、そのまえには、きれいな夕日を眺め、そしてそのまえには…？ “ねむるまえあそび”は、その日のうれしかったこと、ドキドキしたことなどをひとつひとつ思い出していく遊びです。こぐまのティミーにはどんなことがあったのかな？

『ニコとねずみのすてきなせかい』
マンフレート・マイ／作
ヨッヘン・シュトゥアーアマン／絵
斉藤洋／訳
フレーベル館

「ちょ、ちょっとまって！ぼくをたべなければ、きっといいことがありますよ。」ねこに食べられそうになったねずみはそう言って、“すてきなせかい”をあじわわせてあげると約束しますが…。ねずみが見せる“すてきなせかい”たちと、それに対するねこのお返しとは？どこか愛嬌ある2匹について笑ってしまいたくなる一冊です。

『ゆきだるまのスノーぼうや』
ヒド・ファン・ヘネヒテン／作・絵
のざか えつこ／訳
フレーベル館

ずっと前に誰かが作ったゆきだるまのスノーぼうや。周りのゆきだるま達に「ゆきだるまは動かないもの」と教えられますが動きたくてたまりません。ある日、とうとう制止を無視して動き出したスノーぼうや。走って、跳って、自転車に乗って、辿り着いたのは…。動き出したスノーぼうやは、雪にはしゃぐ子どもそのもので見ているだけで楽しくなります。皆さんも今年の雪でゆきだるまを作ってみませんか！？

『ちいさな死神くん』
キティ クローザー／作
とき ありえ／訳
講談社

12歳、中学一年のテッドは成績も良く、バスケも得意。そんな彼の悩みは、何かとチョコカイを出してくる乱暴者のクレイグとアルツハイマー症でテッドのこともよくわからなくなったおばあちゃんのこと。そんなある日、町で凶悪な銀行強盗事件が発生、おばあちゃんと留守番をしていたテッドは怪しい男に拉致され、おばあちゃんを置き去りにしてしまいます…。事件に巻き込まれることで、あるがままのおばあちゃんを受け入れられるまでに成長するテッドの物語です。

『お父さんのバイオリン』

ほしおさなえ／作
高橋和枝／絵
徳間書店

小学六年生の梢はお母さんと二人暮らし。幼いころ交通事故で亡くなったお父さんはバイオリン奏者で、梢もバイオリンを習っているが、ある事故がきっかけでうまく弾けなくなってしまった。同じころ、お母さんの勤めていた楽団も解散し、二人は夏休みが始まるとすぐにおばあちゃんの家に行くことに。そこで梢はコウという少年に会い…。少し不思議でさびしくて、その中でしっかりと歩んでいこうと成長する梢とお母さんのお話です。

『クマのあたりまえ』

魚住 直子／作
植田 真／絵
ポプラ社

タイトル作品の主演である子グマは、死なないものとして石になりたいと考えます。そして、石のようにじっと動かさず、しゃべらず、眠らないようにしますが……。この本に登場する動物たちは、今の自分に疑問を持つことから、これからどうしたいのか、どう生きていくのかということを考え始めます。ある者は仲間と生きていこうとし、ある者は生まれて初めて他者のために行動します。当たり前なのに気づき、きちんと生きることの大切さを静かに語りかけてくるような動物達の7つの物語です。

『クリーニングのももやまです』

蜂飼 耳／作 菊地 恭子／絵
理論社

ももやまさんは、町のクリーニング屋さん。ひいおじいさんの代から続く店には、時々変わったお客さんが様々なもののクリーニングを頼みに来ます。お地藏さんがよだれかけを持ってきたり、虎が毛皮を脱いで預けたり…。服をきれいに仕上げるのが大好きで心を込めて仕事をするももやまさんは、どんな風変わりなお客さんにも丁寧に接します。でも、不思議なお客さん達と触れあう内に、今まで考えなかったことを考えるようになったももやまさんがとった行動は？クリーニングという身近なお仕事と静かで不思議な世界が隣り合わせになったお話です。

『クロネコつうしん』

松尾初美／作
石井ゆきお／絵
石風社

春休みに入って3日目、ひとりで留守番をしていたゆうじの家の庭にクロネコがやってきます。動物好きのゆうじですが、ぜんそくの病気のため飼うことはできません。クロネコのことを心配したゆうじは手紙を書きクロネコの首に結んでみます。するとクロネコの飼い主から返事がきて……。ゆうじとクロネコ、飼い主の少女との心あたたまる交流を描く「クロネコつうしん」など、かわいいいネコが登場するお話です。

『十方暮の町』

沢村 鐵／作
角川書店

和喜の町では最近、靴だけを残して、人が突然いなくなるという、不思議な事件が多発していた。「神隠し」だという噂が流れ、半信半疑の和喜だが、ある日出会った不思議な青年、日下慎治は、町は今「十方暮」という魔の時期で、異界への扉が開いて神隠しが起きているという。和喜は友達のしのぶや仁美と共に慎治を手伝うことにするが…。果たして町を守ることはできるのか？

『チョコレートと青い空』

堀米 薫／作
小泉 るみ子／絵
そうえん社

小学5年生の周二の家は、町でただ一軒の専業農家で、牛も飼っています。そこにガーナからの農業研修生エリックさんを受け入れることから周二や反抗期真っ只中の兄・一樹を中心に一家が少しずつ変化していきます…。日本の農業が抱える問題やチョコレートの原料カカオの生産で有名なガーナが抱える問題について、現役で和牛肥育農家を営む作者ならではの視点から描いており、物語として楽しめるのは勿論、生活の基本となる食を支える農業について考えさせられる一冊になっています。

『夏のサイン』
最上 一平／作
よこやま ようへい／絵
角川学芸出版

もうすぐ夏休みだというのに、つばさの心はちっともはずまない。村でたった一人の同級生のりんちゃんが、埼玉に引っ越してしまうのだ。毎年の獅子舞も、りんちゃんと踊るのはこれが最後。唄方の師匠の義一つあんや、ロン毛のキーちゃん、93才のナナばあちゃんという優しく個性豊かな村人たちに見守られながら、つばさのちょっと切ない夏が過ぎていきます。

『パパはステキな男のおばさん』
石井 睦美／文
あおき ひろえ／絵
BL出版

小学二年生のまりのうちは、ママがはたらいていて、パパが家にいます。そうじもせんたくも、りょうりだってすごくじょうずなパパが、まりは大好き。でも、ともだちのみなみちゃんは、「まりちゃんのパパ、女みたい」と、わらいます。やっぱり、ママが家にいるほうがいいのかな？いい家族のあり方って？まりの答えは、でるのでしょうか？

『秘密のゴンズイクラブ』
広瀬寿子／作
服部華奈子／絵
国土社

夏休みの間だけ、古い城下町にある父親の友人の家に預けられた透は、キツネ、小ブネと名乗る不思議な少年たちが結成した秘密結社の仲間になる。結社の名は殿様の守り木「ゴンズイ」からつけた「ゴンズイクラブ」。オキテにならって「野ガラス」と名乗り、一緒に開発計画から古い城跡を守る行動に出るが…
人の絆のふしぎを描く冒険ファンタジー。

『妖怪一家 九十九さん』
富安 陽子／作
山村 浩二／絵 理論社

化野原団地東町3丁目B棟の地下12階に九十九(つくも)さんの一家は住んでいます。実は、九十九家の7人家族は妖怪なんです。大勢の妖怪たちが住み暮らしている場所へ、ある日人間たちがやってきて、巨大な団地を作り始めたため、妖怪の親玉“ヌマリヒョン”は、市役所の“地域共生課”へ相談に行き、新しい団地に一緒に住んでどうかと提案されるのです。こうして新しい生活をスタートさせた九十九家ですが、はたして妖怪が団地で暮らしていけるのでしょうか！？

『リターン！』
山口 理／作
岡本 順／絵
文研出版

小学五年生の遠藤一樹、通称「イッキ」は休みの日にはたいてい家でゴロゴロしているようなめんどくさがり。そんなイッキが偶然出会ったブーメランに夢中になっていき、やがて、大会目指してクラスの仲間と特訓にはげむことになり…
手作りブーメランのおもしろさや競技ブーメランの迫力など、ブーメランの魅力たっぷりの物語です。

『ロップのふしぎな髪かざり』
新藤 悦子／作
こがしわかおり／絵
講談社

ロップは精霊ジンの女の子。ジンは人間の魂を手に入れて、はじめて一人前になるけれど、人間にとりついたことのないロップはまだ半人前。そんなロップの前に人間バハルが流れつき…個性豊かな人間の魂をもつ仲間のジンに囲まれながら、バハルに出会っているんなものに触れて成長していくロップの物語です。

『アンガスとセイディー』

～農場の子犬物語～』

シンシア・ヴォイト／作

陶浪 亜希／訳

小峰書房

アメリカ、メイン州にある農場に住むミスターとミセスは、動物愛護センターから二匹の子犬をもらってきます。農場には羊や牛、猫などの動物もいて、子犬の毎日は冒険と発見がいっぱいです。かしこくてしっかりもののアンガスとマイペースでちょっぴりこわがりのセイディー。兄妹ですが全く性格が違う二匹の子犬が、農場での暮らしを通して成長していく姿を描きます。

『エアーマン』

オーエン・コルファー／作

茅野 美ど里／訳

偕成社

アイルランド沖の小さな君主国、ソルティー・アイランズ。コナー・ブロークハートはその賢さと勇気で、わずか9才で爵位を授かった。空を飛び夢を胸に家庭教師と飛行機開発に取り組み、14才の頃、人間を乗せた飛行機まであと一歩という時、国王に不満を持つボンヴィレン卿により王が暗殺され、コナーはその殺害犯に仕立て上げられる。リトル・ソルティー島の監獄へ送られてしまったコナーは、失ったものを取り戻せるのか？

『エリザベス女王のお針子』

～裏切りの麗しきマント』

ケイト・ペニンントン／作

柳井 薫／訳

徳間書店

16世紀イングランド、エリザベス1世の時代。貴族の館にお針子として使える13歳のメアリーは、女王暗殺のたくらみを聞いてしまっただけでなく、同じく秘密を知った父が殺されるところを目撃してしまう。低い身分のメアリーは、父殺しの一味を訴えることもできず、お針子としての腕だけで宮廷へいくことになりました。メアリーは、沈黙で身を守るのか、それとも陰謀を暴くのか！？きらびやかな当時の服装とそれらを作る側の厳しい労働環境も垣間見せてくれる作品です。

『カイト パレスチナの』

風に希望をのせて』

マイケル・モーパゴ／作

杉田七重／訳

ローラ・カーリン／絵

あかね書房

紛争のまっただ中にあるヨルダン川西岸地区。丘いちめんに敵と味方をへだてる高い壁がはりめぐらされているパレスチナの地にやってきたイギリスの映像記者マックス。彼は、丘の上のオリーブの古木の下で一心にカイト（凧）をつくっている羊飼いの少年サイドと出会い、友達になる。サイドは2年前におきた事件以来、しゃべることができない。その事件とは…？ パレスチナの悲劇と希望をえがいた美しい物語。

『きみ、ひとりじゃない』

デボラ・エリス／作

もりうち すみこ／訳

橋本 礼奈／絵

さ・え・ら書房

家族を亡くし、故国を離れたアブドゥルは、フランス、カレーの街から乗った不法移民を運ぶ船の中で、同じようにイギリスを目指すチェスラブ、ロザリアと出会います。過酷な状況の中、どうして彼らはイギリスへ向かうのか？その先にあるものとは？不法移民の子ども達について考えさせられるお話です。

『空色の凧』

シヴォーン・パーキンソン／作

陣崎 草子／絵

渋谷 弘子／訳

さ・え・ら書房

「凧は青でなきゃいけないんだ。だって金曜日青い色をしてるんだもの。」ちょっと変わった少年ハルは、母親と二人暮らしの家に住み始めたアレクに奮闘中。幼いころに父親を亡くしたハルは彼を受け入れられなくていやがらせをするものの、それが大変なことになってしまい…。アイルランドの暮らしぶりを織り交ぜながら、生き生きと描かれる彼を取り巻く人達の中で、素敵な友達オリビアに支えられ、自分の中に抱えているものと向き合っていく少年のお話です。

『ダーウィンと出会った夏』
ジャクリン・ケリー／作
斉藤倫子／訳
ほるぷ出版

ある日兄から観察ノートをもらった
キャルパーニアは、ノートに観察を書
き留めていく中で疑問にぶつかり、答
えを求めて変わり者のおじいちゃん
のもとを訪れるが・・・。
おじいちゃんと一緒に観察や実験を
していく中で、科学に惹かれていく
キャルパーニア。少しずつ変わって
いく兄弟や、自身も変わることを強
要されていく中で、迷いながらも歩
んでいく一人の少女の物語です。

『チビ虫マーピンは天才画家！』
エリス・ブローチ／作
伊藤 菜摘子／訳
ケリー・マーフィー／絵
偕成社

マーピンはニューヨークのアパート
のキッチンで暮らす、小さな虫の男
の子。この部屋の住人、ボンバデー
一家の長男ジェームズは、優しく、
ちょっとひっこみじあんの少年。
ジェームズへの誕生日プレゼントに
マーピンがこっそりかいた小さな
絵は、なんと大画家デューラーそ
っくりのすばらしい絵だった！や
がて2人(1人と1匹)は美術館の
絵画盗難事件にまきこまれてい
く、、、。友情と、ドキ
ドキの冒険の物語です。

『テッドがおばあちゃんを見つけた夜』
ペグ・ケレット／作
吉上恭太／訳
スカイエマ／絵
徳間書店

12歳、中学一年のテッドは成績も
良く、バスケットも得意。そんな
彼の悩みは、何かとチョコカ
イを出してくる乱暴者のクレイ
グとアルツハイマー症でテッドの
こともよくわからなくなったお
ばあちゃんのこと。そんなある
日、町で凶悪な銀行強盗事件が
発生、おばあちゃんと留守番を
していたテッドは怪しい男に拉
致され、おばあちゃんを置き去
りにしてしまいます・・・。事
件に巻き込まれることで、ある
がままのおばあちゃんを受け入
れられるまでに成長するテッド
の物語です。

『パパはバードマン』
デイヴィッド・アーモンド／作
ポリー・ダンバー／絵
金原 瑞人 携
フレーベル館

リジーは、イギリス北部の町に
パパと二人で暮らす、心優しい
女の子。子供のようないくつ
も世話までするしかり者だ。
そのパパは最近つばさを作
ったり、虫を食べたり、巣作
りまでして、何と「だれが
いちばんすごい鳥人間でし
ょうコンテスト」に出ると
言い出した！羽をつけたか
らって飛べるわけない、と
パパを説得しようとする
リジーだが・・・。ちょっと
変わったパパと娘の心温
まるお話。

『ぼくたちとワッフルハート』
マリア・パル／作
松沢 あさか／訳
堀川 理万子／絵
さ・え・ら書房

トリレはクネルト・マチル
デの小さな入り江に住む9
歳の男の子。おとなりに住
む同じクラスのレーナのこ
とを一番の親友だと思っ
ています。2人の住む入り
江では毎日何かが起こり
ます。レーナがとびつき
おもしろいことを思いつ
き、トリレも一緒にな
って、周りの人々をハラ
ハラさせます。さて、今
年の夏至祭りはどんな
ことになるでしょうか！
？ノルウェーの美しい
自然の中で育まれる友
情の物語です。

『雨あがりのメデジン』
アルフレッド・ゴメス＝セルダ／作
宇野 和美／訳
すずき出版

舞台はコロンビアの町メ
デジン。十歳の少年カ
ミーロは、必死に働く母
をよそに酒を飲んで暴
れる父を持ち、学校に
も通っていません。ある
理由から、町の図書
館に近づいたが、親友
アンドレスとの友情や
ある図書館員と出会い
により、彼の中で何か
が変わり始めます。
貧しさや暴力の中に置
かれたカミーロの現実
は変わらなくとも、彼
自身が人や本との出
会いを通じて変化して
いくことで、未来への
一筋の希望が見えてく
るようなラストが印象
的な一冊です。

『つぎ、なにをよむ? 1・2年生』

秋山 朋恵／編集
偕成社

「何かおもしろい本ない?」そんな子供たちの声をききながら、小学校の図書室で働く秋山さんがつくったこの一冊。おなじ1・2年生に人気がある本や、おもしろかったといった本などを参考にしながら書かれたガイドブックです。いくつかのテーマにわけて紹介された本は、質問に答えながら読む本をさがしていくチャートもついていて、どの本から読んでいいのかわからない子にも本をさがしやすいようになっています。さて、きみが気になる本はどれかな?

『日本と世界をくらべるえほん』

ふゆのいちこ／絵
学研教育出版

日本の一番は世界では高いのかな、低いのかな?日本のたくさんは世界では多いのかな、少ないのかな?日本と世界はどのくらい違っているんだろう?世界を6つの地域に分け、日本の一番と6つの地域の一番をかわいいイラストと図で比べてわかりやすく紹介。人口や面積、高い山や自動車の生産量などを比べることで、「日本」と「世界」の違いが見てわかる、くらべる絵本。

『日本のもと 円』

森永卓郎／監修
講談社

お金はどうして生まれたの?何のためにお金はあるの?お金の成り立ちから、これから先の未来でのお金の在り方まで、お金にかかわる歴史や経済を織り交ぜながら、日本のもと“円”についてわかりやすく解説しています。私たちが日ごろ何気なく使っているお金について知るとともに、読んだ後にお金とどう付き合っていくのかを改めて考えさせられる一冊です。

『おかえり、またあえたね

～ストリートチルドレン・トトのものがたり』
石井 光太／文
櫻井 敦子／絵
東京書籍

9才のトトは、両親を失い、祖母と妹と暮らしていましたが、病気で妹が亡くなり、老いた祖母が教会に入ったことで、ストリートチルドレンになります。仲間たちと物乞いやゴミ漁り、時には犯罪に手を染めそうになりながら、降りかかる災害や仲間との別れを乗り越えるトトのたくましさ、トトのような子どもが世界には大勢いるという現実を子どもにも大人にもわかりやすく伝えてくれます。

『高校受験 すぐにできる40のこと』

中谷 彰宏／作
PHP研究所

「受験時代」は、つらいのをガマンする時代でしょうか?いえいえ、こんなすばらしい時代はないのです。実家がスナックで、カラオケのスピーカーの真上の部屋で勉強していたという作者が教えるのは、「うるさいところで、勉強しよう」「机のないところで、勉強しよう」「習いごとは、続ける」「睡眠時間は、勉強時間に入れていい」など、独特の勉強法です。作者が言うように、受験もゲームのようにクリアできたら楽しい、、、、かも?

『ありがとう、諏訪子さん

～日本でいちばん長生きしたインドソウの話』
深山 さくら／文
末崎 茂樹／絵
佼成出版社

動物園の人気者のソウ、その中で2008年に日本最高齢の65歳で亡くなるまで神戸市立王子動物園で多くの人に愛されたインドソウの諏訪子の生涯を描いたノンフィクション。子ソウの時に日本にやってきた諏訪子が経験した様々なこと、仲間のソウとの関係や動物園の引越、結婚、飼育員との交流などのエピソードを柱に、一日に100キロものエサを食べ、一回のおしっこは40リットルなど、なにもかも大きなソウの生態についても教えてくれる一冊です。

『もののしくみ大図鑑』
ジョエル・ルボーム、クレマン・ルボーム／著
村上 雅人／監修
世界文化社

私たちの周囲には、沢山のモノが溢れており、それらはより便利に、より使いやすく、日々進歩をつづけています。でも、ちょっと考えてみると、それらがどういう仕組みで動くのか説明できますか！？普段何気なく使っていて、使用については何の不自由もしていないけど、私たちはそれらのことを全く知らないのかもしれない。この本は、そういった“もののしくみ”について、説明してくれます。子ども達の好奇心は勿論、大人が読んででもなるほどと感心すること請け合いですよ。

『飛べ！「はやぶさ」』
松浦 晋也／文
学研教育出版

2010年6月13日、小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還しました。小惑星のかけらをとって帰ってくるという、世界初の試みの大成功です。打ち上げの2003年から、あしかけ7年の壮大な大冒険でした。本書では、はやぶさの設計や、7年間に遭遇した様々な危機、それらにはやぶさ運用チームがどう対応してきたか等を、カラー写真付で解説されています。スタッフの情熱に心打たれるとともに、思わずプラネタリウムへ出かけたくなる一冊です。

『テーブルマナーの絵本』
高野 紀子／作
あすなろ書房

- (1) お箸の先は右と左どちらに置く？
- (2) ごはん茶碗は右と左どちらに置く？
- (3) つけあわせの大根おろしやすだちは魚の手前、奥、どちらに盛り付ける？

皆さんは三つともわかりますか？この本には、いざというとき恥ずかしくない、マナーのお話がたくさん紹介されています。行儀がいいと思っっていることも、実はマナー違反だったり！？普段から注意しておけば、お友達の家へ招待されたときも大丈夫！のはず…。

『名画で遊ぶ あそびじゅつ！』
エリザベート・ド・ランビリー／作
おおさわちか／訳
長崎出版

「ディテールって言葉を知ってる？」という言葉からはじまるこの本は、名画の中からそのディテールを探していきます。名画というところか難しい感じがするかもしれないけれど、探し物をしていくうちに絵に散りばめられた画家たちの遊び心などが垣間見えたりといつもととは別の一面が見えてくるのは、どこか新しい発見をしているみたいでわくわくさせられます。ところでディテールって何、だって？それはこの本を開いて、ということですよ。

『切り紙12か月 作ってかざろう！』
今森 光彦／作
童心社

12の月それぞれの美しい自然や暮らしの中の行事を題材にした切り紙を紹介しています。本の後ろについている型紙をコピーすればかんたんに作れるものばかりです。9月はお月見、コスモスや柿など紹介されています。かわいらしくて、美しい切り紙で、日本の1年を彩りましょう。

『なかまことばえじてん』
深谷圭助／監修
鈴木アツコ／絵
学研教育出版

同じような場面で使うことばでも日本語にはさまざまな表現の仕方があります。それらのことばを「なかまことば」として、たくさんのキャラクターが登場するにこにこタウンの街や海など11の場面でテーマごとのことばを紹介します。場面ごとに「うれしい」「おどろく」などのテーマに合わせた「なかまことば」が書かれており、ことばの意味と例文を知るページと照らし合わせて読んでみましょう。また、たくさんのキャラクターがどこにいるのか探しながら、楽しくことばに親しむこともできます。